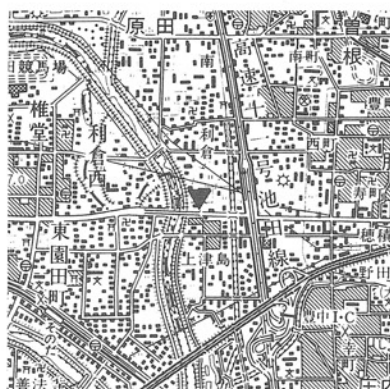


こうづしま 大阪・上津島遺跡



(大阪西北部)

木簡が出土したのは、中世集落に伴う素掘り井戸とみられる土坑である。全体の約二分の程度が調査対象となり、南北一・二五m深さ約七〇cmを測る。底部

- 1 所在地 大阪府豊中市上津島三丁目
- 2 調査期間 第五次調査 一九九三年(平五)三月～六月
- 3 発掘機関 上津島遺跡調査団・豊中市教育委員会
- 4 調査担当者 服部聡志
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代中期・一一世紀～一三世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 調査地点は遺跡エリアの西端に位置する。周辺での試掘所見から、遺跡東部とは別の微高地上に立地するとみられる。遺構は古墳時代中期と一一～一三世紀の集落、中世集落直前の水田遺構がある。

に暗緑灰色粘土の堆積があり、木簡はその直上から植物遺体に混じって瓦器皿などとともに出土した。共伴遺物より一三世紀前半頃の所産と考えられる。

中世集落は、周囲からの比高約三〇～四〇cmの高まりの上に営まれ、掘立柱建物五棟以上、土坑八基、溝八条の他、曲物井戸一基がある。建物の重複関係、出土遺物から一一世紀末から一三世紀後半にかけて存続した集落とみられる。木簡が出土した土坑二は、集落としての最盛期に機能したらしい。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「物忌昔蘇民将来之子孫門也」
〔宅カ〕急々如律令

759×51×8 051

上端は圭頭、下端は漸次幅を減じながら先を失らせる。表面の風化が著しく文字は判読し難いが、一部はレリーフ状に浮き出ている。

9 関係文献

上津島遺跡調査団・豊中市教育委員会『上津島遺跡第五次発掘調査報告』(一九九七年)



(服部聡志)